

**授業概要**

日本児童文学の代表作の中から幾つかの作品を選択して教材とします。子どもは、世界を分析したり合理的に解釈したりする力は未発達な部分がありますが、恣意的な分析・合理的な解釈の度が低いからこそ、かえって見えてくるもの・認識できるものがあると思われます。その意味で、子どもを対象として創作された児童文学には、大人には見えない貴重な世界が描かれていると考えられます。特に異界という視点は、重要な世界認識の転換を読者にもたらすものと考えられます。

この授業では、日本近現代の歴史を背景に日本近現代児童文学の流れ、日本近代文学の流れ、海外児童文学の流れ等を視野に入れながら、代表的な児童文学作品を読み講義します。基本的に講義形式で行いますが、発表形式も取り入れ、毎回作品について全員がコメントを発表します。学外施設見学も行います。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス、児童文学史概観
第 2 回	小川未明『赤い蝋燭と人魚』他
第 3 回	『赤い鳥』掲載作品より芥川龍之介『杜子春』他
第 4 回	濱田廣介『泣いた赤鬼』他
第 5 回	宮澤賢治①『注文の多い料理店』他
第 6 回	宮澤賢治②『ペンネンネンネン・ネネムの伝記』より
第 7 回	宮澤賢治③『風野又三郎』より
第 8 回	宮澤賢治④『銀河鉄道の夜』より
第 9 回	宮澤賢治⑤伝記
第 10 回	新美南吉『狐』他
第 11 回	戦後の児童文学 1 (松谷みよ子・斉藤隆介・安房直子)
第 12 回	戦後の児童文学 2 (佐藤さとる・天沢退二郎)
第 13 回	童話と絵本 (宮田正治『見沼の竜』他)、現代の児童文学 (『怪談レストラン』『学校の怪談』)
第 14 回	施設見学 1 (『見沼の龍』に基づく周辺見学等)
第 15 回	施設見学 2 (国際子ども図書館、東京子ども図書館等)
第 16 回	総まとめ (期末試験)

**到達目標**

近現代日本児童文学の歴史を学び代表的な作品を読むことから、近現代日本児童文学についての知識と教養を得るとともに、作品について発表をすることとコメントを書くことで、作品を読んで想像したり考えたりする力を養います。

**履修上の注意**

毎回、作品についての感想、疑問点、意見、考察などを発表しますので、常に自分で読み考える姿勢で受講してください。また、作品を音読する機会も作りたいと思いますので、音読に慣れることを心がけてください。遅刻は 20 分以内までとし、遅刻 3 回で欠席 1 回とします。施設見学は、土日に授業を振り替えて行います。

**予習・復習**

作品は事前にプリントで配布しますので、授業までに必ず読んで発表内容をノートにまとめてきてください。自分なりの問題意識をもって授業に臨んでください。

**評価方法**

受講態度・発表・コメント・自主的な発言・施設見学レポート・期末試験などを、総合的に評価します。期末試験 50%、課題 30%、受講態度 20%

**テキスト**

毎回の授業で、次回の作品のプリントを配布します。

**授業概要**

詩・物語・劇の3つのジャンルにおける日本文学の特徴を、古典から近代への展開を押さえ、また中国文学・西洋文学との比較を交えつつ講義する。劇については極力視聴覚の教材を活用して、実際の上演の姿に触れたい。日本文化の特徴は、先行する表現を斥けずに、それを受容しつつ新しい要素を付加していくことにあるが、文学の諸ジャンルにおいてそれがどのような形でなされ、近現代の表現に受け継がれていったのかを捉える。合わせて日本文学がこれまで世界でどのように捉えられてきたのかを概観する。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス：日本文学の特徴
第 2 回	日本の詩歌1：『万葉集』の成立と和歌の原理
第 3 回	日本の詩歌2：『古今集』と『新古今集』
第 4 回	日本の詩歌3：連歌から俳諧へ
第 5 回	日本の詩歌4：近代詩の諸相
第 6 回	日本の劇1：夢幻能の成立と世阿弥
第 7 回	日本の劇2：狂言と西洋喜劇
第 8 回	日本の劇3：人形浄瑠璃と歌舞伎
第 9 回	日本の劇4：近現代の演劇
第 10 回	日本の物語1：『源氏物語』の成立
第 11 回	日本の物語2：『平家物語』と『太平記』
第 12 回	日本の物語3：江戸文芸の世界
第 13 回	物語から小説へ1：江戸戯作と明治文学
第 14 回	物語から小説へ2：鴎外・漱石と中国古典
第 15 回	日本文学への眼差し：チェンバレンからキーンへ
第 16 回	まとめ：日本文学の世界性

**到達目標**

- ・古典から近現代に至る日本文学の表現を貫くものと、変化していったものを語るができる。
- ・日本文学が総体としてこれまでどのように眺められてきたのかを説明することができる。

**履修上の注意**

- ・この授業は講義形式で行われる。
- ・毎回欠かさず出席すること。
- ・特別な知識、素養は不要だが、日本文学への興味を持っていることが望ましい。

**予習・復習**

- ・予習はとくに必要としないが、授業後は必ず内容を確認し、重要点が何かを銘記すること。

**評価方法**

- ・期末レポート（70%）及び小レポート（30%）により評価する。

**テキスト**

- ・授業の資料は毎時間教員が準備して配布する。参考文献については、授業中に示唆する。